

ぎかい



2015.1.16

小国町議会だより 第**123**号



迎春

小国の未来を担う子どもたち

一般会計補正 1億7,994万円可決

主な 内容

- | | |
|-----------------|----------|
| ■ 12月定例会概要 | 2～3 ページ |
| ■ 一般質問 | 4～8 ページ |
| ■ 視察研修報告 | 9～10 ページ |
| ■ 研修等報告・年頭のあいさつ | 11 ページ |
| ■ おらもおぐに町民 | 12 ページ |

4万円を可決！ 2,775万円

平成26年
12月定例会
12月4日(木)～9日(火)

12月定例会は26年度各会計補正予算、条例の制定など19件が審議され原案のとおり可決された。請願は1件が提出され採択となった。

一般質問は5名が町政の諸問題について質問した。

※本会議の詳細はインターネット録画をご覧ください。

一般会計補正予算 総額1億7,994万円

- ◆民間保育所への途中入所児童増加に伴う保育所入所委託料 ……3,637万円
- ◆県道整備に係る県執行事業負担金 ……720万円
- ◆小国中学校校舎特定天井の耐震化実施設計委託料 ……160万円
- ◆地域経済循環創造事業補助金 ……5,000万円

条例の制定

- ◆小国町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定
- ◆小国町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の制定
- ◆小国町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定
- ◆小国町指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例の制定
- ◆小国町地域包括支援センターの包括的支援事業の人員及び運営に関する基準を定める条例の制定
- ◆小国町中央児童室設置条例の一部を改正する条例の制定
小国小学校内に整備された中央児童室での受け入れ対象児童を、これまでの「小学校3年生まで」から「小学校6年生まで」に改める。
- ◆小国町災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例の制定
- ◆小国町スキー場の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定
これまでリフト使用料とは別に設定していたハーフパイプ使用料を廃止し、簡易リフト使用料に含むこととしたほか、金額をこれまでの半額程度に改正するとともに、簡易リフト使用料のシーズン券を新たに設定。
- ◆小国町小国町民総合体育館条例の一部を改正する条例の制定

請 願

- ◆米価下落による支援策と平成27年度農業予算の確保について

請願者 JA山形おきたま小国地区農政対策本部 本部長 伊藤憲一

一般会計補正1億7,999 補正後の予算総額61億

臨時議会 10月15日（水）

◆一般会計補正予算 342 万円

- 叶水小中学校の教育を考える検討委員会（仮称）設置に関する経費
- プレミアム付き買い物券の発行を支援する地域経済活性化支援事業の経費

議決結果 否決（賛成4人 反対5人）

◆工事請負契約の一部変更

- 繰越事業 町道幸町1号線他4路線道路改良工事請負契約
完成工期 平成26年10月17日を平成26年11月28日に変更
契約金額 1億238万円から1億623万円に変更
議決結果 可決（賛成多数）

臨時議会 11月28日（金）

◆一般会計補正予算の専決処分の承認

- 住宅リフォーム総合支援事業の追加 220 万円
- 第47回衆議院議員総選挙の経費 1,088 万円

◆一般会計補正予算 1,354 万円

- 人事院勧告に基づく職員給与等人件費の追加
- 米価下落対策に係る農業制度資金の利子補給事業
- プレミアム付き買い物券の発行を支援する地域経済活性化支援事業
- 叶水小中学校の教育を考える検討委員会（仮称）設置に関する経費

◆各特別会計・企業会計補正予算

- 人事院勧告に基づく職員給与等人件費の追加

◆条例の制定

- 一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例の制定

◆工事請負契約の一部変更

- 繰越事業 町道幸町1号線他4路線道路改良工事請負契約
完成工期 平成26年11月28日を平成26年12月15日に変更
契約金額 1億623万円を1億1829万円に変更

議決結果 全議案 可決（賛成多数）



町民に人気のきらきらお買物券の交換風景



齋藤 弥輔

雪崩で災害が 起きてからでは遅い

雪崩の 危険地帯について

齋藤 雪崩の危険地帯を通して生活している地区民は不安な時期を迎えている。朝篠、沼沢、明沢、樽口、河原角などの地域があるが、県が対応していただける所は県にお願ひし、町が対応しなければならぬ雪崩の危険地帯は町が行われなければならない。現時点において、町は朝篠地域に何の対応もしていない。沼沢地区は地区住民1戸、朝篠地区住民は11戸と1事業所、その他配達業務関係などの往來の安全確保は安全喚起の看板では守ることはできない。

昨年のように雪崩発生後のポケットの作製では遅いのではないか。雪崩の発生による災害が起きてからでは遅い。安全安心のまちづくりを進めなければならぬ町として、町長の考えはどうか。

町長 町内全域を担当課と昨年の降雪期に巡回し、現地確認をして、抜本的な対

策を行うため、県に対し現状を説明し、県事業として実施いただけるよう働きかけをしている。さらに、事業化のための財源を確保するため、雪害対策事業の採択に向けた手続きを進めている。

県との協議の結果、町道樽口足水中里線の樽口集落手前の危険箇所を雪崩防止柵が昨年度取り付けられた。現在、町では、町道松岡大石線の朝篠地区内と町道樽口足水中里線の滝倉寄りのわらび園周辺での防雪工事を検討しているが、いずれの事業費も数千円程度になる見込みから、国の社会資本整備総合交付金の活用について国・県と協議を進めている。明沢及び沼沢の箇所については、交付金の



対応が待たれる雪崩危険地帯

対象となる路線から外れていることやJＲの施設に隣接し工事の確保が難しいことなどから、対応について国・県や関係機関との検討協議が続いている。本年度において、町道西滝市野々線で退避スペースの確保事業を行っている。しかし、町内には雪崩危険箇所が数か所確認されており、年次のな対応にならざるを得ない。また、施設整備が完了したとしても、引き続き注意看板の設置やパトロールの強化、積雪を待つての雪崩を受け止めるポケットの形成といった方法が続け、地域住民の安全を図っていく。

どんな工法があるのか

齋藤 対策として、防護壁、鉄柱を建てての防護ネット、スノーシエッド、法面の段差工法などを検討したことはあるのか。実施するとしたらどの工法が安全で少ない予算で可能なのか。

地域整備課長 朝篠地区では治山工事は難しい。防護ネットを検討し国に打診中

である。沼沢と明沢地区は別の手法を考えている。

道路管理者の責任は

齋藤 雪崩が発生し、重大な事故が発生した場合に道路管理者として、町はどのような責任を取るのか。

町長 具体的に様々なケースがあるので答弁を控えさせていただく。それぞれに適切な対応をさせていただく。

他市町村に転出

齋藤 雪崩の危険地帯があると長年住み慣れた所を離れていく要因にもなっている。同じ小国町内に住んでいたければよいが、他市町村に転出する方がでくれば町長が公約にしている「一万人構想」とは逆に人口減少に拍車がかかってくるのではないか。

町長 沼沢だけでなく、様々な地域、集落において課題がある。雪崩や除雪などがあるが、町づくりの中で手厚い福祉、除雪支援などきめ細かな対応をしていく。



小関和好

「観光産業」今後の課題 「小国町わらびプロジェクト」は、実現すべき!

今後の観光事業の 進め方について

小関 文教産建常任委員会の視察報告に関連して質問させていただく。

現在、長野県は北陸新幹線の開通を控え、以前にも増して観光に力を入れている。

私になるほどと感じたのは、観光協会が法人化され、指定管理者として道の駅や宿泊施設の運営を行っていることである。企画・宣伝が直接売上に直結する、誠 に合理的であると感じた。第4次小国町総合計画後期基本計画にも交流推進のための事業が挙げられているが、果たして現在の組織形態でいいのか疑問である。

観光産業は、女性の職場としては今後も貴重な産業である。そして、高規格道路が完成するまでが勝負と考える。是非、スピード感のある事業展開を望むものであるが、町長の意気込みを伺う。

町長 他の自治体の観光協会では、自主財源を確保するための方策の一つとして

観光協会が観光案内所や博物館などの運営を指定管理者として受託している事例や協会組織を株式会社化したり、特定非営利活動法人の組織形態を採用しているところもあると聞いている。

本町では、行政と観光協会が、また、それぞれの事業の実施組織や団体等が連携しながら今日まで関わってきた。その代表的なイベントが、石楠花まつりや夏まつりである。昨年度末に、行政と民間企業等が一体になって観光振興を図る機関として、小国町観光交流推

農産物の販売と

6次産業化の 推進について

進協議会を設立した。それ ぞれの取り組みに加えて、横の連携と結びつきを確保することで効果的な情報発信の機能を高めていきたい。引き続き、受け皿づくりや女性をはじめとした人材の活用 に努めていくので理解と協力を願いたい。

小関 長野県小川村では、平地も少なく交通の便も悪い中、漬物から始まり、米の代わりに食していた「おやき」を全国に広め7億円

余りを売り上げている。当町には日本一と言われるわ



小国町の宝「わらび」

らび・ぜんまいがあるが、さらに全国に広げる努力が必要と思っている。高校生

議会でも提唱された「小国町わらびプロジェクト」は、是非実現すべきと考える。

また、加工品の研究開発もスピード感をもって推し進めるべきと考えるが、町長の考えを伺う。

町長 町では、小国町地産地消推進協議会に地産地消

や6次産業化の推進、生産体制の確立、地域戦略・地域おこし等を検討するワーキンググループを設置した。6次産業化の推進では、様々な団体が独自の取り組みを行っており、「新しい芽」も育ってきている状況にある。

小関 「小国町わらびプロジェクト」は実施しないのか。

商工観光主幹 27年度に設置される「地域資源ブランド化戦略会議」の中で検討していきたい。

叶水小中統合の進展には 地域振興策が欠かせぬ条件



小林 嘉

3月までの

統合は可能か

小林 来年3月まで「統合のために先頭に立つ」とした町長方針は実現できるのか。

強い反対で

合意できていない

町長 当初の予定を一年間延期し、平成27年度に統合を行うとの方針で、昨年度から計12回の懇談会を開催してきたが、未だ合意形成に至っていない状況から、来年度の統合を見送る。

話し合い

硬直化の内容は

小林 統合の話し合いが、進まない原因は何か。

統合以前の

段階で食い違い

町長 平成17年決定の統合に関する基本的な考え方や方向性を説明し、理解と協力をお願いしてきた。保護者からは、「小規模校ゆえに手厚い教育が受けられる」、「社会性も十分育まれている」

「学校と地域が連携し協力する姿勢があるところが良い」、「地域の考えや意見等を町にも教育委員会にも取り上げてもらえない」など、一貫して反対意見が出され、統合以前の段階で双方に意見の食い違いが生じている。

意見の食い違いの
打開策は

小林 地域や保護者の理解を得るための打開策はどのように考えているのか。

第3者委員会を
立ち上げる

町長 これまでの懇談会の進め方では打開策は見いだせない状況にある。「(仮称)叶水小中学校の教育を考える検討委員会」を立ち上げ、公平・中立的な立場で統合に向けての提言をいただくこととし、課題抽出・整理をしながら、統合の議論を前進させたい。

学校に代わる

施策を打ち出せ

小林 先日、議員有志で地

元との懇談会を行った。地域の方は、学校が廃校になれば地域コミュニティが崩壊するとの強い懸念を持っている。

学校に代わる新たな補強策を示すとともに、すでに民間主導で展開中の「Uターン者の受入れ」や「定住対策」などに、官民協働で取り組むことを提案する。

第3者委員会の

提言を尊重

町長 確かに、地域の学校



来年度の統合が見送られる叶水小中学校

がなくなることは、地域共同での作業やイベントなどの低下につながり、コミュニティの崩壊が危惧される。既に、小玉川地区では振興事務所の開所、北部地区では小さな拠点モニター事業の導入などが進められている。東部地区でも先進事例を参考にしながら自発的、自主的な取り組みを期待するとともに、第3者委員会の提言内容を精査し振興策を検討していく。



本間 義信

新たなごみ収集の 仕組みづくりを

高齢化社会に対応
した新たなごみ収
集の仕組みづくり
について

本間 現在、設置されてい
るごみステーションでのご
み収集の仕組みでは高齢者
にとって難しい現状となっ
てきている。ステーション
まで距離があるため非常に
苦勞している現状から新た
なごみ収集の方法を提案し
たい。

自宅前にごみを出し、そ
れを回収するシステムを提
案したい。このことは新た
な仕事づくりにもつながる
し、高齢者にやさしいまち
づくりの基本となるものと
考えている。ぜひ実現すべ
きと思うが町長の考えをお
聞きする。

町長 現行におけるごみの
収集方法については、搬入
に係る費用等を考え合わせ
て、各地区に設置されてい
る「収集所」いわゆるごみ
ステーションまで個人に運
搬いただき、町からの収集

委託業者が、収集所から小
国リレーセンター等に搬入
する仕組みとしている。収
集所は各地区で整備し管理
することとしており、現在
町全体で234か所設置さ
れている。

一方、高齢化の進行に伴
い、収集所までの距離や冬
期間における高齢者等のご
み運搬が大変な状況となっ
ており、現行によるごみ収
集の仕組みだけでは、高齢
化社会に対応できないケー
スも発生するものと認識し
ている。

平成25年度に実施した高
齢者等安心生活課題調査に
よると、年齢が進むにつれ
て、食事の用意や住居の掃
除など生活の基礎的な用務
がたいへんになり、85歳以
上の約半数は困難であると
回答していることから、も
議員ご指摘のとおり、高齢
者にとって、ごみの運搬に
ついても困難な状況にある
ものと推測される。

このため、介護保険の対
象者については、訪問介護
サービスの利用による支援



町内に設置されているごみステーション

を行い、また、介護認定を
受けていない高齢者の方に
ついては、小国町高齢者等
生活支援事業として、町社
会福祉協議会に生活管理指
導員の派遣を委託し、ごみ
運搬を含めた生活全般の支
援に取り組んでいる。

こうした高齢者の安全で
安心な暮らしを支えていく
うえで、各種の活動を推進
している社会福祉協議会と

連携を図りながら、今後と
も高齢社会におけるごみ収
集や除雪体制のみならず、
生活支援のあり方に関する
方策に取り組んでいくので
ご理解いただきたい。

その他質問

*町立病院での人工透析を
実施するための現状と課
題について

透析研修医師に対する 任命責任は



高野 健人

**公約に掲げた1万人
復活のための施策は**

高野 町長は、1万人復活のまちづくりを標榜して当選してから2年が経過した。この2年間、1万人復活のための施策はどのように展開されたのか、具体的に示して欲しい。

町長 人口減少が進行している状況の中、非常に高い政策目標を掲げているということは十分承知しているが、課題となっている取り組みや、移住・交流の仕組みづくりなど、人口流入を促す施策についても、今後その環境整備に努め、具体的な展開を図っていくつもりだ。

高野 町長に就任して2年、人口増につながる施策は何もない。そして、400人の人口が減少した。これらを反省し、小手先ではない、思い切った施策をすべきと思う。

また先般、飯豊町におい

て、飯豊町電池バレーの実現を目指すという新聞に出たが、小国町にこの情報は入らなかったのか。

町長 そのような情報はなかった。

高野 こういう人口増につながる情報には常にアンテナを張っておく必要がある。

透析研修医師 について

高野 5月20日から小国町立病院嘱託医師として採用された方が、4ヶ月弱、勤務日数55日で退職された。しかし、それにかかった経費が500万円を超えており、結果的にこの金は無駄になった。貴重な税金である。町長は任命者として、町民に対し責任を取るつもりはないか伺いたい。

またこの方は、4月1日から6月30日まで小国町医療政策推進監として採用されている。医療推進監の業務内容と出勤日数を伺いたい。



人工透析が計画されている町立病院

町長 維持透析の実施を目標にした今回の取り組みは、新たな手法の確立を目指したものであり、この度の反省を踏まえて、さらに、慎重に取り組んでいくことが、私に課せられた大いなる責務であると認識している。なお、4月1日からの質問だが、役場に出勤し具体的な業務をお願いしたということではなく、非常勤嘱託職員として任用し、研修に向けた事前準備をお願いした。

高野 500万円もの税金が無駄になったのに、誰も責任を取らない。これで町民が納得するだろうか。町長が良しとすれば仕方がない。今後町民の判断を待つしかない。

■その他の質問

- おぐに白い森(株)について
- 役員体制と、民謡流しにおける職員に対する残業代の支払いについて

常任委員会 視察研修報告

Committee Report

総務厚生 常任委員会

「少子高齢化における地域再生、集落支援」をテーマに行政視察を行った。

■視察年月日

平成26年10月28日(火)
～30日(木)

■視察内容

(1) 広島県安芸高田市

(川根振興協議会)

中国山地に位置し市部まで車で約30分、19集落、223世帯、人口490人、高齢化率44・7%の状況にある。

①経済活動
中学校跡地に建設された宿泊研修施設を管理するとともに、名産の柚子を利用した特産品の開発、販売により雇用を創出している。

②福祉活動

一人1日1円募金を財源に一人暮らし高齢者の訪問活動を継続している。

③担い手確保

地域活動参加や義務教育終了までの子供がいることを条件に「お好み住宅」を整備。家賃3万円、20年間入居で払い下げる。累計23棟建築、70名が生活している。



「お好み住宅」と通学風景

④農地保全

「営農環境委員会」、「農事組合法人かわね」の連携で農地保全に努めている。

⑤生活環境

住民出資により「万屋(コンビニ)」、「油屋(ガソリンスタンド)」を運営している。

⑥生活交通の確保

地域住民の生活実態に合わせ市が運営する有償運送事業を受託し、利便性の向上を目指している。

⑦行政との連携

「酒を飲めば役場職員の悪口」が、地域懇談会を重ねるごとに一方的な要求型から提案型に変わり、「自らの地域は自らの手で」とした主体的な地域活動と的確にサポートする行政との協働によって運営されるようになった。



中学校跡地に建設された宿泊施設

(2) 島根県邑南町

(「口羽をてごおする会」)

本庁まで車で約40分、20集落、400世帯、人口800人、高齢化率50%を超えている。

①「今暮らししている人がいかに充実して人生をおく

るか」という視点で活動を開始した。

② 住民が困っていることをサポートする仕組みとして、(もつ)の役場)「集落支援センター」機能をもつ「口羽をてごおする会」を立ち上げた。

③ ボランティアではない民間事業体を維持するためふるさと米の供給、新聞配達事業、中山間直接支払事務局の受託などの収益につながる事業に取り組んでいる。

(3) 島根県浜田市

(政策企画課、農林振興課、議会事務局)

平成17年に合併し、旧町村を自治区とする「浜田那賀方式自治区制度」を導入し、それぞれの基金を「地域振興基金」として10年間事業継続し、地域活動を展開している。

人口約5万8千人、高齢化率33・3%という状況にある。

特に定住支援に力を入れており、新規就農者支援制度により就農前の研修を充実させている。

就農に当たっても農地・

資金確保、雇用先の紹介、住居の相談など手厚い支援策を講じている。これまで研修を受けた29名のうち14名が定住という結果になっている。

■課題と今後の取り組み

本町でも人口減少、少子高齢化が急激に進み、町全体の高齢化率は34・7%であるが、各集落をみると人口減少と高齢化に拍車がかかっているように感じる。

緑のふるさと協力隊、小さな拠点づくり事業などの集落支援を行っているが、今回視察した川根地区、口羽地区のような地域住民の活動までは至っていない。

職員の地域活動への積極的な参加、行政情報の提供、地域コーディネーターの役割を担う人材育成など主体的な地域活動を支援し、活性化に結び付ける大胆な施策が必要である。

また、人口減少に対する危機感を共有し、各分野にとらわれない総合的な定住支援にスピード感をもって取り組んでいかなければならない。

文教産建
常任委員会

■日時

平成26年10月22日(水)
24日(金)

■視察先

長野県飯山市・小川村・
白馬村・安曇野市

■目的

*グリーンツーリズムの推進について

*高齢者の雇用創出と6次産業化の取り組みについて

*官民一体となった観光地づくりについて



多くの雇用を生んでいる「旬の味ほりがね物産センター」

*直売所の運営や学校給食の食材供給について

長野県飯山市

「外から目線で地域再発見」

一般社団法人
信州いいやま観光局

「なべくら高原森の家」

飯山市は、長野県北部に位置し人口2万1千人程の全国でも有数の豪雪地帯。

平成19年に観光協会が法人化された後、観光交流関連の第3セクターが統合され、平成22年、いいやま観光局が設立。現在、指定管理者として道の駅や森の家など4つの施設を運営している。外からの目線で地域資源を体験型プログラムに加工し提供することに主眼を置き、都会の若者を雇用し毎年異なったプログラムを企画しマスコミ等に宣伝している。

当町でも外からのニーズに応えた観光資源の提供につなげる取り組みや組織づくりを実践し、広く小国町を発信することが必要であると感じた。

長野県小川村

「地域に根ざした

特産品の販売」

株式会社 小川の庄

人口3千人弱の小川村にある株式会社「小川の庄」は、昭和61年に農協が指定を受けた「ふるさと田舎事業」の一環として漬物の生産を引き受けることから始まった。現在は、地域にないものは地域に広げないという視点で「おやき」を中心に味噌・漬物・そば等を全国に販売し年間7億円程を売り上げている。

定年退職制度は無く平均年齢は50歳を超えている。

本町において山菜は大きな地域資源であり、中でも栽培技術の確立された「わらび」は、地域に根ざした「宝」と位置づけられる。生産振興はもとより、6次産業化の積極的な取り組みにより商品化を図り、販売に結びつけることが課題であり、そのための連携した組織の立ち上げが急務であると感じてきた。

長野県白馬村

「時代と共に

変化する観光産業」

一般社団法人 白馬村観光局

白馬村は北アルプスのふもとにあり、夏は登山、冬はスキートの観光客が訪れ、避暑地として知られる人口9千人程の村である。

平成17年に有限責任中間法人白馬村観光局が設置され、その後、一般社団法人化された。特徴は、官民一体となった観光推進組織であり、村長が代表理事を、民間の観光事業者代表が副理事を務めている。現在は交通機関や登山用品製造・販売業者と連携しオリンピック施設やスキー場を活用したイベントの開催、長期滞在型旅行等の企画など様々な事業を展開している。

町づくりの重要な柱である観光は時代と共に変化している。本町においても、観光のあり方・意味を問い直すことにより地域が有する観光資源や強みを再認識する必要があると感じてきた。

長野県安曇野市(旧堀金村)

「直売所から広がる雇用」

農事組合法人 旬の味

ほりがね物産センター組合

昭和62年に新鮮市として直売所が発足し、平成8年度に現在の直売施設と加工施設が整備され、その運営主体として、旬の味ほりがね物産センター組合が誕生した。平成15年に農事組合法人化され、その後、合併により安曇野市となつてからは指定管理者として施設を運営することとなり、現在は併設された道の駅の管理も行っている。

組合組織は、総務部・物産部・加工部・食堂部の4部門で構成され、多様な事業展開により多くの雇用を生んでいる。

本町においては、野菜に加え魅力の大きい山菜やきのこも含め、小国らしい「直売」のシステムを模索しながら広く生産者の組織化を図り、既存施設との連携の中で直売機能を強化していく必要があると感じてきた。

研修等報告

置賜地方町村議会議長会 議員交流会

■ 期 日

平成26年10月9日(木)

■ 場 所

川西町農村環境改善センター、総合運動公園

■ 内 容

①講演

「置賜の地酒事情」

講師

山形県商工労働観光部

技術主幹

小関 敏彦 氏

県内地酒ブランド確立の

ため、高級酒醸造の取り組み等について講演いただいた。

②スポーツ交流

グラウンドゴルフを通じ、他町議会議員と交流を行った。

山形県町村議会 議員研修会

■ 期 日

平成26年10月20日(月)

■ 場 所

山形国際交流プラザ

■ 内 容

講演(一)

「農政改革の現状と

これからの課題」

講師

東京大学大学院

農学生命科学研究科

教授 鈴木 宣弘 氏

講演(二)

「これからの

政治・経済のゆくえ」



熱心に聴講する議員

講師

帝京大学経済学部

教授 黒崎 誠 氏

関川村・小国町議会 議員交流会

■ 期 日

平成26年11月19日(木)

■ 場 所

①役場大会議室

②町立小国小学校

■ 内 容

①講演

「土砂災害等に関する

話題について」

講師

飯豊山系砂防事務所

所長 鈴木 和弘 氏

年頭のあいさつ



小国町議会議長

伊藤 重 廣

新年おめでとうございます。

昨年4月に新小国小学校が開校し、学びの殿堂と

してスタートしました。将来の小国町、日本を担う子どもたちが恵まれた環境でしっかり勉強し、大きく成長されることを願っております。

昨年は天災が頻発しましたが、今年は羊のごとく穏やかで災害のない、また、町内の景況が好転し、町民皆様にとって良い1年になりますようご祈念申し上げます。

議会では、議員活動の活性化のため積極的に視察や研修を重ねてまいりました。町民皆さまの負託に応えられる議会となるよう議員一同、頑張る所存であります。本年もよろしくお願い申し上げます。



新小国小学校の説明を受ける議員

広島県や長野県で発生した土砂災害の発生状況等とともに、土砂災害防止法の概要やダムや堰堤等の整備による効果事例について講演いただいた。

②現地視察

視察先 町立小国小学校



写真やグラフをもとに土砂災害の発生メカニズム等について学んだ

おらも おぐに町民

町の人から
ちょっとひとこと



プロフィール

氏名 五十嵐 大二
年齢 三十歳
勤務先 すみれ保育園
趣味 音楽・ギター
映画観賞

Q 保育に関わることになっ たきっかけは？

24歳の時、私は北海道で
仕事をしていました。そん
な時、父に「保育園の移転を
考えているんだが小国に帰
って来て保育園を手伝わな
いか。」と言われ小国に帰

ってきたのがきっかけです。

Q 今、はまっていることは？

子育てです。昨年6月に
長女が生まれて新米パパ真
最中です。夜泣きをして寝
不足で大変ですが、妻と一
緒に娘の成長を楽しんでい
るところです。

Q 今後の目標は？

保育園を通じて、子育て
の大切さ、楽しさや幸せを
より多くの人に感じてほし
いです。

Q 小国町で好きな場所は？

叶水大橋の手前にある展
望台です。見渡す限りの山々
はとてもきれいで、そこか
らまわりを見ていると気持
ちが落ち着きます。

Q 町、議会に望むことは？

今は、全国的にも少子高
齢化が進んでいて、小国町
も若い人が地元に残らない
という状況で大変苦労され
ていると思います。
しかし、少ないとはいえ
小国町にも若い人たちが住

んでいます。その人たち本
人から、小国町の良いところ、
改善してほしいところ、
また、どうしたら若い人た
ちが小国町に帰ってくるこ
とができるか等について聞
いてもらいたいと思います。

小国町は、自然豊かで人
も優しいところです。のん
びり子どもが育つことがで
きる環境があります。そん
な小国町が私は大好きです。
本当に帰って来て良かった
と思っています。



すみれ保育園のおゆうぎ会のようす

※今回から表紙の写真は保育園の特集を計画しています。

次は3月定例会です。
傍聴においでください。

議会に対してのご質問、ご意見をお寄せください。

議会事務局（62）2448

編集 後記

明けましておめでとうござ
います。

昨年暮れには第47回衆議
院議員の選挙が行われた。

結果は与党が大勝利安倍
首相の進める地方創生の真
価が問われることとなる。

地方においては、流れに遅
れをとることのないよう、こ
れまで以上に地元からの声を
大きくしていかなければなら
ない。

また今年は、統一地方選
挙が行われる。若い人が斬新
な考えで小国町議会に関わっ
ていただきたいと思う。

今冬は例年になく早くか
らの積雪となった。新しく導
入された宅道除雪のきめ細
かな対応に期待したいものだ。
そして高齢者世帯が安心して
冬の生活を送っていただけ
ばと思う。

今年は災害もなく良い年
になりますようにお祈りし
ます。

遠藤（記）

発行責任者

議長 伊藤 重廣
議会広報特別委員会
委員長 齋藤 弥輔
副委員長 小関 和好
委員 遠藤 和彦
小林 嘉